

書 燈



(右) 西図書館防災展示

(左) 中央図書館防災展示

図書館が追い求めるもの

岡田 宏二

古い話で恐縮だが、私が大学4回生の時に友人が「これから社会に出る者の必読書だ」と一冊の本を勧めてくれた。当時、アメリカ随一の社会予報家であったジョン・ネイスビッツ著(竹村健一訳)の『メガトレンド』がそれで、著者は近未来を決定づける大きな社会潮流を10項目指摘していた。

読後感想は殆ど忘却の彼方であったが、ふとしたことからこの本の記憶が蘇り、果たして当時随一の社会予報家の予言が今日どれほどの中しているのか興味も手伝って通販を利用して再購入した。

巻末には、1983年4月に第1刷発行、同年9月に第70刷発行とあり、当時超ベストセラーであったことが窺え、薄茶に変色したページを繰ってみた。

改めて通読すると結構予言が当たっており、特に印象的なのは「ハイ・テックとハイ・タッチの共存」という二律背反的な命題。ハイ・テック(テクノロジー)は高度な技術の導入、ハイ・タッチ(ヒューマンタッチ)は人間らしさ、技術との不協和時に平衡を取り戻そうとする人間的反応と定義する。

ハイ・タッチがなければ技術は拒絶される、ハイ・テックであればあるほどハイ・タッチが必要とされると述べ、例えば、ワープロ等の技術が導入されるにつれ手書きノートや手紙が復活する、パソコンが用意されても他人と一緒にいたいと思うから在宅勤務は進まない……などと将来予測していた。

さて前置きが長くなったが、この命題を現在の市立図書館に当てはめてみればどうだろうか。

確かに、図書館ネットワーク、電子書籍、ICタグ、所蔵資料のデジタル化等電子技術は相当採用されている。

しかしながら、ジョン・ネイスビッツの予言に従えば、今後、あらゆる分野で高度な技術が更に進展するだろうとのこと。サービスや利便性が向上するのであれば、技術でできることは技術に任せよとの考えは至極自然である。むしろ、機器や技術ではなく、人でしかできないものは一体何なのか、ということが問われるのではない。

改正著作権法や読書バリアフリー法等の施行によりデジタル化・ネットワーク化の対応が求められる中、図書館奉仕もデিজリー図書や音声付電子書籍等、アクセシブルな媒体が普及しつつあるが、それらをツールとして提供するのには人に他ならない。

図書館の利用者に向き合い、読書の楽しさや満足を感じてもらふこと、地域の様々な団体と連携し、ネットワークを通じて利用者の課題発見・解決に寄与すること、そのような“ハイ・タッチなスキル”があって、“ハイ・テックな技術”が真価を発揮するのであろう。

図書館が追い求める「二律共存」は、古くて新しい課題である。
(中央図書館長)

電子図書館の試行実施報告

総務課担当係長 秋定 敦

1. 事業概要

神戸市は、楽天株式会社と電子図書館サービス「Rakuten OverDrive」の提供に関する協定を締結し、平成30年6月22日に電子図書館を初めて導入した。自宅に居ながら電子図書館が利用できる利便性向上と小学校の英語教科化に向けて家庭で英語に親しんでいただくことを目的に、2年間の試行として実施した。

2. 電子図書館のコンテンツ数（平成30年度）

総コンテンツ数は13,473冊であるが、内無料の青空文庫11,198冊を除くと2,275冊が購入コンテンツで、その内日本語書籍は1,554冊、洋書は721冊である。

神戸市立図書館全館（以下「リアル図書館」と言う）の平成30年度の「紙の本」の購入数は約109,000冊であり、その冊数で市民の多様な読書欲求に役立っていることを考えると今回そろえた電子図書館のコンテンツ数はまだまだ少ない。

蔵書に対してどれだけ借りられているか回転数（貸出延べ冊数/蔵書冊数）を出すと、電子図書館全館では1.9回（25,405/13,473）だが青空文庫を除くと日本語書籍12.5回（19,420/1,554）、洋書6.4回（4,629/721）である。

一方、中央図書館の一般書と児童書を合わせた「紙の本」の回転数は約3回であり、電子図書館の回転数が「紙の本」を大きく上回る結果となった。

これは、貸出・返却に手間がかからない電子図書館の利用が効率的であることを示していると考えられる。また、英語の教科化を見据えて英語に親しんでいただくため読上げ機能の付いた洋書を導入したが、導入後半年で延べ4,629回の貸出があったことでその目的は果たしていると考えられる。

3. 電子図書館の利用状況（令和2年1月現在）

貸出者数は29,129人、貸出冊数は44,556冊、予約冊数は11,103冊、登録者数は11,324人、ホームページアクセス数は174,544ビューであった。

トータルの登録者は増え続けているので、貸出者数・貸出冊数共に増えるはずだが、実際の貸出者数・貸出冊数の動きは、新規登録者の動きと連動しており、6月開始時が最も多く、徐々に減り続け令和2年1月には貸出者数は最低となった。

これは、導入直後に多くのコンテンツを提供しているが、その後追加する数が、月平均で約100冊前後（青空文庫を除く）であったことも影響していると考えられる。定期的なPR等で登録者数は増加するが、

継続的に魅力的なコンテンツを提供しなければ、貸出者数・貸出冊数は伸びないことを示していると考えられる。

4. 電子図書館のジャンル別利用数（令和2年1月現在） （下記ジャンルに含まれないものを除く）

	ジャンル	蔵書数 (A)	構成比	貸出冊数 (B)	構成比	回転数 (B/A)
日本語	青空文庫	11,198	80.2%	1,972	4.4%	0.18
	大人向け実用書	991	7.1%	20,545	46.1%	20.73
	大人向け小説・エッセイ	539	3.9%	10,907	24.5%	20.24
英語	児童向け実用書	89	0.6%	1,479	3.3%	16.62
	児童向け絵本・読み物	650	4.7%	5,619	12.6%	8.64
	うちナレーション付	545	3.9%	3,354	7.5%	6.15
	ヤングアダルト向け小説	6	0.0%	84	0.2%	14.00

最も蔵書が多いのは青空文庫であるが、貸出書籍の回転数はわずか0.18回である。

次は大人向け実用書で、貸出冊数は最も多い。回転数も20.73回で最も多い。

次は英語の児童向け絵本や読み物であるが、貸出冊数は3番目である。回転数は8.64回で低い。その内、ナレーション付の書籍の回転数は6.15回と書籍を見ながら聞くという電子図書館ならではの利用がされた。

その次は大人向け小説・エッセイであり、貸出冊数は2番目。回転数も20.24回で2番目である。

児童向け実用書は回転数が16.62回と3番目に多い。普段からスマホを使用する親世代が子供に使わせていると思われる。

英語のヤングアダルト向け小説は回転数が14.00回と多い。多読に活用されたと思われる。

5. 電子図書館登録者の地域分布及び年齢構成（令和元年8月）

電子図書館登録者の地域分布を「リアル図書館」と比較すると、区別登録者の割合に大差はない。

また、「リアル図書館」を中心に地域分布をみていくと、近い地域も離れた地域も登録者が多い。これは、「リアル図書館」と比べると、距離による差はないように考えられる。図書館から離れた地域として、六甲アイランド（向洋町中）、ポートアイランド（港島）などの登録が多い傾向にある。

年齢構成は「リアル図書館」と同様の傾向で、40代後半が多いが、電子図書館はその割合が顕著である。例えば46歳は「リアル図書館」では1.9%と最も多いが、電子図書館では3.6%と約2倍も割合が高い。逆に20歳前後と70歳以上の割合が「リアル図書館」に比べて低い。これは、普段より図書館に



来ている方には PR はできているが、新規の方への PR が足りないことを意味していると考えられる。

6. 市民満足度調査結果（平成 30 年 12 月）

電子図書館について聞いたところ、利用したことがある人が 20.4%（1,144/5,602）であった。その中で一番多かったのは 30～50 代の会社員・公務員で、予約本の受取りのために図書館を利用しており、滞在時間は 15 分未満である。普段からインターネット予約を行っていることから電子図書館に違和感がなく、また、来館の必要もないため、利用されたと考えられる。

知っているが利用したことがない人は 35.6%（1,993/5,602）で、ほぼ 60 歳以上の無職、アルバイト・パートが多く、読みたい本を探して借りるため、2～3 日に 1 回図書館を利用しており、1～3 時間、本、雑誌、新聞を読む利用スタイルである。館内のチラシやポスター等で電子図書館のことは知っているが、「紙の本で満足している」「パソコン・スマホを持ってない」「モニター画面やスマホでは読みにくい」などの意見が多かった。

知らなかった人は 42.8%（2,397/5,602）で 10～20 代の学生や会社員・公務員の割合が比較的多かった。この年代は調べ物、自習のため図書館を利用しているが、無回答も多く、PR の余地があることが窺える。

7. 他都市の状況

政令指定都市 20 市の中で実施している都市は、導入順に堺市（2011 年 1 月）、札幌市（2011 年 10 月）、大阪市（2012 年 1 月）、さいたま市（2016 年 3 月）、浜松市（2018 年 2 月）、神戸市（2018 年 6 月）、熊本市（2019 年 11 月）と 7 都市であり、今後の他都市の状況も注視していきたい。

8. 今後に向けて

蔵書の回転数から見ても、貸出・返却に手間がかからない電子図書館には一定のニーズがあり、魅力的なコンテンツを多数そろえることにより貸出は増加することが予想される。読書バリアフリー法の主旨を受け、電子図書館ならではの文字拡大や読上げなどの機能を使って高齢者や障害者へのサービスの充実を図りつつ、図書館から離れた地域に住む人や心身の障害等や子育て・介護等で来館しにくい人等図書館を利用したくても利用できない人を対象に「リアル図書館」との住み分けを考えていきたい。加えて、国際都市神戸として多数の外国人のために紙媒体の多言語資料に替えて電子図書を収集・提供していきたい。

〈新規採用職員エッセイ〉

「カウンターのこちら側」から見る景色

小野寺くるみ

私が神戸市立中央図書館で働き始めて、早 1 年が経とうとしています。「カウンターの向こう側」から「カウンターのこちら側」に変わった場所に座っていると、今でも時々不思議な気持ちになることがあります。

配属された調査相談係では、主にレファレンスを行っています。レファレンスとは簡潔にいうと調べもののお手伝いで、歴史にまつわる事柄から最新の事柄まで、本当にあらゆることを質問されます。全く聞いたことのない単語が出てくることもあり、知識不足を痛感する日々です。

ですが、自分が持っている知識が思わぬところで役に立ったり、調べものをする事で新たな世界を知ることができたりして、ほんの少しですが、楽しさも感じられるようになりました。

毎日利用者の方と接するなかで、心がけていることがあります。それは、ランガナータンが提唱した図書館学の五法則のひとつ、「図書館利用者の時間を節約せよ」という言葉です。インターネットが普及し、疑問に思ったことをすぐ調べられる時代になりました。司書として、もちろん正確・丁寧であることは譲れませんが、ある程度のスピードも求められると思います。調べものをしてると、同じ回答でもたどり着くまでに複数のルートがある、ということがよくあります。その場合、初めにどのルートを選択するかによって、かかる時間が変わってきます。また、何冊調べても載っていなかったことが、後日たまたま手に取った本に書かれていることもあります。最適なルートや資料を見つける力は、決して一日で身につくものではありません。経験を積んで少しでも多くの資料を知り、利用者の方に速く適切な情報を提供できるようにしたいです。

世の中のこと、地域のこと、資料のこと。私には、まだまだ学ばなければならないことがたくさんあります。カウンターの向こう側にいたころの自分を忘れず、利用者の方から「図書館に来て良かった」と思ってもらえる司書になれるよう、これからも日々精進していきたいです。

（調査相談係）



－「神戸セレクション」講演会の開催－

12月7日、(公財)神戸市産業振興財団との連携により、同財団の事業「神戸セレクション」の講演会を中央図書館で行った。神戸セレクション認定商品の企業から、(株)亀井堂總本店(菓子製造)の五代目見習い・松井隆昌氏、(株)ナカムラ(マッチ製造)の中村和弘社長にお越しいただき、神戸で100年以上続く両社の歴史や商品開発等について、ご講演いただいた。普段なかなか聞くことのできない地元の企業家の話に、37名の参加者は興味深げに耳を傾け、多くのご質問もいただいた。

(調査相談係長・榊井)

－阪神・淡路大震災25年の震災関連イベント－

阪神・淡路大震災から25年を迎えるにあたり、市立図書館では記憶の継承と防災意識の向上を目的とした行事を行った。中央図書館では「#いつか来るから、備えてみた。」と題し、「備え」に関する情報パネル、手作り防災グッズと防災図書の展示、関連機関から集めた73種のチラシ・パンフレットの配布を行った。また、シール式のアンケートパネルで来館者の「備え」を問い、1,142枚の回答を得るなど手応えを感じる展示となった。(調査相談係長・榊井)

須磨図書館では、新聞紙を使い災害時に役立つスリッパ等を作成する「防災工作教室」(1/11)、新長田図書館では、震災をテーマとした「朗読会」(1/19)を開催。その他、神戸アーカイブ写真館からお借りしたパネル展示「神戸の慰霊碑を訪ねて」(東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西)や関連図書のミニ展示(兵庫・北・北神・西)が行われた。

(企画情報係・乾)

－電子図書館新規登録キャンペーン－

電子図書館の利用者を増やすため、ヴィッセル神戸とタイアップし、11月23日から12月14日の間に新規登録した方全員に特製モーヴィ缶バッジを渡すなど全館でキャンペーンを行った。その結果、659人の新規登録者を得た。(総務課担当係長・秋定)

－K-lib ネット利用促進キャンペーン－

初の試みとして、2月4日から29日をネットワークサービスキャンペーン期間とし、K-lib ネットの利用促進を目的とした展示やポスターの掲示などを各館で実施した。(市民サービス係・川村)

－寄附について－

この度、垂水区在住だった吉波眞三氏から遺贈として1,000万円のご寄附をいただいた。遺贈金の使途については、神戸市立図書館における図書の購入や、施設の充実に充てた。特に垂水図書館には手厚い配分をご希望されており、その旨に沿うよう、資

料の購入だけでなく棚等の買替を行った。この他にも、垂水区在住の女性の方から、地元図書館へ児童書(特に青い鳥文庫等)の充実にと50万円のご寄附をいただき購入している。(資料係長・棟安)

－館内研修(12月・2月)の実施について－

中央図書館の館内整理日である12月19日と2月20日に、館内研修を実施した。

12月は、「図書館司書専門講座」を今年度受講した福永市民サービス係長による、受講報告とワークショップ形式による実習を行った。

2月は、(株)デザインヒーローの和田武大氏を講師にお招きし、「PRのブラッシュアップ講座」をポスター制作の実習も交えて行った。

受講者には、今後の業務に活かしてもらいたい。

(総務課担当係長・村井)

－手帳－

会議	11.29/2.19/3.23	文教子ども委員会
	1.31	財務定期監査
	2.13	図書館協議会
	2.20	第2回近公図協議会理事会
	2.21	KEMS 確認審査
	3.6	予算特別委員会局別審査
	3.10	兵庫県立図書館協議会
	3.27	中央図書館職員安全衛生委員会
研修	1.28~1.31	文部科学省地区別研修(京都)
	12.19	中央図書館館内研修
	2.20	中央図書館館内研修
行事	12.7	「神戸セレクション」講演会
その他	11.27	市民満足度調査(全館)
	12.4	Jアラート全国一斉情報伝達訓練
	12.3~12.28	マナーアップキャンペーン
	12.18	市長会見:(仮称)名谷図書館新設及び新垂水図書館移転新設について
	1.17	防災訓練
	2.7	日本政策金融公庫寄贈図書贈呈式
	2.12~3.31	(仮称)名谷図書館新設及び新垂水図書館移転新設についてのアンケート実施
	2.19	Jアラート全国一斉情報伝達訓練
	2.20	消防訓練
	3.10	北神図書館内誘導マット設置

＝新型コロナウイルスによる臨時休館＝

3.3~3.16 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部のサービスを除き神戸市立図書館全館を臨時休館とした。(3.17より開館)